第7回塗料・塗装設備展（コーティング ジャパン）　探索！機能性・設備の可能性

RX Japan主催の高機能素材Week2024「第7回塗料・塗装設備展（コーティング ジャパン）」が10月29日から3日間、千葉市美浜区の幕張メッセで開催される。同展では、機能性塗料から塗装設備、表面処理技術などが一堂に出展。各社が最新技術や製品をアピールする場となる。会場には、エレクトロニクス、自動車などの工業分野から建築・建材分野まで、幅広い技術者が来場する。今回の目玉イベントとしては、29日にOEM8社によるパネルディスカッション「自動車塗装CN研究会の取組み」、30日には展示会終了後、各社情報交換の場として懇親交流会が行われる予定である。本紙面では、同展に出展する注目4社の製品やサービスを開催直前に紹介する。来場前の事前リサーチにぜひ役立ててほしい。なお、同展を含めた「高機能素材Week2024」の来場には、事前登録が必要。

日本特殊塗料

【小間番号】7-44

機能塗料で快適環境創造
環境・意匠性等に関して提案

―貴社の会社概要をお願いいたします。

当社は1929年に航空機用塗料の製造会社として設立されました。現在は、2事業を展開し、塗料事業本部では建築用塗料、塗膜防水材、塗り床材を製造しています。

「特殊塗料」の研究を続けて80余年。継承されてきた創意工夫の精神と開発技術を生かし、多様な分野で活用される機能的な塗料を通じて、社会に貢献する快適環境を創造します。

―今回は、塗料産業の魅力を伝えるとする日本塗料工業会「PAINT PAVILION」での出展となりますが。

塗料の利用分野はとても広く、広義には塗装しないところを見つける方が難しいくらいです。それだけにニーズも魅力も無限大だと考えられますが、塗料業界になじみのないユーザーにとっては、どこの会社にどのように問い合わせればよいのかわからないことも多いように思います。

―ぜひとも無限大の魅力を伝えたいですね。

PAINT PAVILIONは、総合的に塗料について検索できる場をユーザーに提供できる可能性があると思います。言わば塗料のデパート。ベースに日塗工があり、9社ブースが集うことで、それぞれのお客様ニーズにマッチしたブースへ誘導できると思います。自社的にはバビリオンに来られる方々からニーズをキャッチできれば良いと考えています。

―今回出展を決めた動機や意義についてお聞かせください。

展示会におけるPRの有効性はあるものの、塗料業界の商習慣においては、展示会での効果判定が難しい一面もあります。また、日塗工をはじめ、製販装として業界を活性化していくという考えに賛同した一面もあります。業界の底上げは、当社の利益にも帰ってくるものと考えます。

PAINT PAVILIONへの出展ということで、多くの来場者の方々にニットクの塗り床材、塗膜防水材やリフォーム基礎等を知っていただき、他社と比較していただく機会をいただいたと考えています。

―今回の出展についてお願いします。

新製品を中心に、バイオマス塗料やリフォーム需要に対する、環境・意匠性等に関する提案ができればと思います。

―具体的にはどのような製品でアピールしますか。

水性硬質ウレタン系塗床材「ユータックコンプリート軟難黄変BIO」はB液に植物由来の原料を55%使用したバイオマスマーク認定商品です。環境負荷の軽減に取り組んでいます。

1液水性特殊アクリル樹脂屋根用塗り替え用下塗り「TMRプライマー」は、既存塗膜がある時に使用する窯業屋根用の水性プライマーです。エポキシ樹脂に引けを取らない付着力で多くの既存塗膜に適応します。適用上塗りとして、リニューアルした遮熱塗料も紹介します。

―意匠面ではいかがですか。

2液弱溶剤形フッ素樹脂高意匠性クリヤー塗料「ルクスキュアF」は、意匠性と建物の長期保護を目的とした塗料で、艶ありのトップコート、3分艶のマットコートを揃えています。なお、この製品と「ユータックコンプリート難黄変BIO」はニットク・アメニティシステム会の会員専用製品です。

―ブースではどのような展示になりますか。

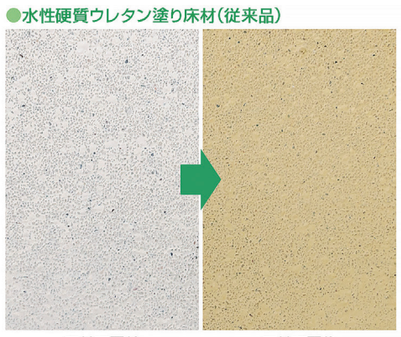
今回は、ブースのデザインで目を引くことはできないため、展示する商品分野を絞ってアピールする予定です。ご紹介する製品が環境に資するものが中心ですので、環境意識をもったユーザーに認知いただければ嬉しいと思います。

―最後に、来場者へのメッセージをお願いいたします。

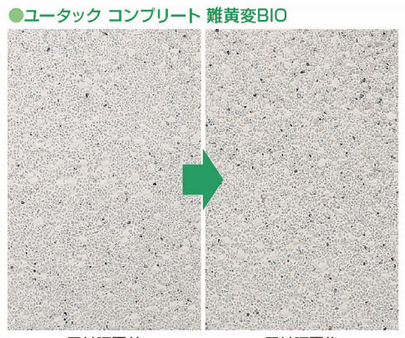
創業以来、最高峰の機能を要求される航空機塗料を開発するメーカーとして、また、電動化へシフトする明日の自動車の快適を開発するメーカーとして、最新の塗料をご紹介します。是非とも当社ブースにお立ち寄りください。

―ありがとうございました。

●水性硬質ウレタン塗り床材（従来品）



●ユータック コンプリート 難黄変BIO



㊤耐候性試験結果（屋外曝露10日）㊦ユータックコンプリート 軟黄変BIOは駐車場床にも施工

ワカヤマ

【小間番号】9-29

傷修復、耐火塗料を展開
機能性でソリューション提供

―貴社の紹介をお願いいたします。

当社は眼鏡の産地である福井県鯖江市で、大変ニッチな特殊表面処理の開発および施工を行っています。

眼鏡など高級商品への装飾加工をメイン事業としていますが、10年程前から傷修復性や防炎性など機能性塗料の開発も行っており、国内外の最先端機能性塗料の用途開発に注力しています。

―鯖江市は眼鏡の街として有名ですね。

当社では、眼鏡の素材であるチタンやステンレスへの表面加工技術を他の分野にも応用し、義足などの医療機器、美顔器やヘアーアクセサリなど身体に触れる製品の装飾による高付加価値化に貢献しています。また、眼鏡においてはカラーリングの他、傷修復機能などの市場が求める機能性の付与によるマーケティングのお手伝いもさせていただいています。

―今回出展する製品・商品、サービスについてお聞かせください。

商品を長期間にわたり美しく保つことが可能な傷修復塗料「クロスガード」や、和紙などの燃えやすい素材も質感を変えずに難燃化できる耐火塗料などをご紹介させていただきます。

また、近年職人不足により微細な色入れなどの手間のかかる業務が滞ってしまう事例を耳にします。しかし、当社ではDX化により職人技の量産化に成功しておりますので、今後の生産ラインの安定化についてもご提案させていただきます。

―DX化にも積極的に取り組んでいるのですね。カーボンニュートラル等、環境問題においての取組みなどはいかがでしょうか。

当社は、5年前から約3割の消費電力を再生可能エネルギーで賄っています。これはめっき工程に用いる電機は、ほぼカーボンフリーで行っている計算になります。また、当社で塗布させていただく商品は製造工程でのロスが大変少ない工法を採用しております。そのため、ほぼ100%良品として出荷しています。

―具体的には、どのような工法でしょうか。

廃棄ロスのための具体的な例では、ハーモニカの塗装ですが、当社が関わらせていただく前までは、2割が不良品として廃棄されていました。当社では、眼鏡と同じように塗装不良を修復することで、ロスゼロを実現しています。

―出展を決めた動機や意義はどのようなものでしょうか。

機能性塗料により解決できる課題が多い中、まだまだ認知がないために諦められているお客様が大勢いらっしゃいます。例えば、高価な防炎素材を用いなくても塗装するだけで防炎化できれば、大幅なコストダウンと安全性の確保が瞬時に実現できます。事実、某テーマパークでは全ての人工植物や木材が当社の製品により防炎加工されています。

また、SDGsに向けた高機能な水性塗料のご紹介など、寄与できる面が多くあると思いました。

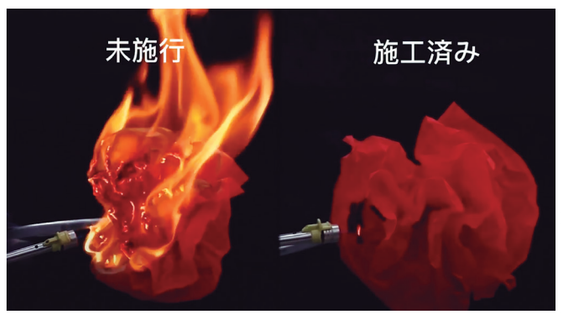
―展示会では、ブース誘導のためにどのようにアピールしますか。

一般の方にも興味を持っていただけるように、機能性塗料の耐火機能などをニンジャの技に見立ててご紹介しています。会場で実際に燃やすことはできないので、ブースに来ていただいた方にサンプルをお渡しする予定です。また、アンケートにご回答いただいた方はガンジャポンで、カラフルなニンジャのぬいぐるみがGETできますので、お気軽にお越しください。

―最後に、来場者へのメッセージをお願いいたします。

今までであきらめていたような案件であっても、まずは一度ご相談にいらしてください。展示ブースにない商品でも、まさかこんなことが解決できるとは、と言っていただけるよう、さまざまな機能性塗料やソリューションをご紹介させていただきます。

―ありがとうございました。



㊤ワカヤマのイメージキャラクター「機能性塗料戦隊ニンジャコート」㊦ 防炎塗料の比較実験

パーカーエンジニアリング

【小間番号】7-2

来場者参画型ブース空間
新発表製品含む7点を展示

―貴社の紹介をお願いいたします。

当社は1951年にグループ企業である日本パーカライジング（東証プライム上場）に創設された設備部門を母体としたエンジニアリング会社です。塗装の前処理から乾燥まで全ての工程で設計施工が可能であり、メンテナンス等アフターフォローまで手掛ける塗装設備のトータルエンジニアリングを提供しています。

―設備設計面ではどのような点が貴社の強みでしょうか。

塗装に関わることは、ほぼ全工程でお役に立てるかと思います。強みとして、前処理や電着設備に競争力があり、永らくお客様から好評をいただいております。

―初出展となりますが、出展する製品・商品、サービスについてお聞かせください。

当社ブースでは新製品を中心とした最新設備とサービスを合計7点展示致します。

㊤技術力を体感できる展示ブース㊦環境対策に寄与する乾式フィルター「DRY CUBE」

そうですね。今回の出展は、当社の新サービスや新技術をいま以上に世の中へPRし、取引の裾野を広げたいとの思いで出展を決めました。そのため幅広い製品群の出品と、「粉体塗装体験」や「VR体験コーナー」を設けて、来場者参画型のブース空間を演出します。また、先に紹介した粉体の協働ロボットを実際に動かしてデモンストレーションも実施します。

―近年、SDGsやカーボンニュートラル等環境課題における製品が求められています。こうしたニーズを満たす製品はありますか。

今回展示するアイテムでは乾式フィルターの「DRY CUBE」が最も環境問題の課題解決に寄与する製品かと思います。水洗ブースから代替することで排水処理は不要になりますし、既存の乾式フィルターより高捕集効率・高捕集量が期待できます。また、フィルター交換も既存の乾式フィルターよりも長持ち塗料・塗装設備展を新製品の発表の場としても位置付けしており「協働ロボットを活用した塗装膜厚自動補正システム」を初披露します。協働ロボットを活用した塗装膜厚自動補正システムは、粉体塗装の焼付前の膜厚検査をロボットによる自動化したものです。塗装と検査工程を人とロボットによる協働で行える新しいソリューションとなります。ほか粉体塗装関連では全体の半分ぐらいのスペースを設けて展示します。

―塗装機メーカーでもありエンジニアリング会社でもあるので出展内容が盛りだくさんですね。

会場入口に最寄りの7・5小間スペースが当社ブースになりますので、自然と来場者の目には止まるかと思います。当社のことをよく知らないという方にも足を運んでいただきたいと思っております。また、塗料販売店の皆様には、お客様の生産性向上や省人化に貢献できる各種製品をラインアップしておりますので、当社の技術力を改めて体感していただきたいと思っております。

当日は、サコッシュのノベルティも準備しておりますので、お気軽にお立ち寄りください。

―ありがとうございました。

栗田工業

【小間番号】6-48

粉体塗装の作業体験を
工場に納入するイメージに

―貴社の概要について教えてください。

当社は1949年創業から数えて今年で76年目となります。当初は九州を中心にビル、商業施設、工場等の空調・換気設備工事を行ってまいりました。そこで培った換気のノウハウを事業展開し、ここ40年あまり自動車補修塗装業界に自社オリジナルの乗用車用の塗装乾燥ブースや大型トラックやバス用の大型塗装乾燥ブースを納入してまいりました。

―近年の注力点は何でしょうか。

近年は工業塗装分野に力を入れ、自社製作の塗装ブースおよび乾燥炉の納入を増やしております。

本展示会は3年前より出展を続けており、当社の強みである自社工場での設計、製作、そしてお客様の工場への据付け、アフターフォローをアピールしております。

―今回の仕掛けや出展する製品・商品、サービスについてお聞かせください。

前回までと同様に、塗装工場で使用できる塗装換気装置の実機を展示し、お客様に設備のイメージをつかんでいただけるように配慮しております。

今回は、粉体塗料の塗装実演、レーザー溶接機の溶接実演を行うことにより、来場者に実際の作業も体験していただけます。

―展示ブースに足を運んでほしいターゲット層は、どういったところでしょうか。

来場を期待しておりますお客様は、これから塗装を始めようと考えている、塗装環境のコンプライアンス遵守を進めたい、人手不足を解消するために作業環境改善や残業削減・自動化を検討したい、設備更新で最新設備導入による不良率低減・乾燥時間短縮による高効率化を目指したい、金属&樹脂の両方の塗装を考えている、大型トラック等の塗装を考えている各工場といったところが挙げられます。

―これから塗装を始めようとする企業の動機は何でしょう。

今まで外注していたものを内製化してコストダウンを図るといったところです。小規模事業者で多品種少量塗装が多く、当社が得意としている分野です。

―今回、出展を決めた動機や意義はどのようなものでしょうか。

前々回、前回と出展した際に、新たなエンドユーザーに来場していただき、新たな商談に繋がりました。今回、出展内容を前回の1・5倍程度に増やし、新たな商談獲得に繋がるよう期待しております。

―産業界で話題のSDGsやカーボンニュートラル等の環境問題において、貴社の具体的な活動があれば教えて下さい。

乾燥炉のパネル・ダクトの断熱性能を高めることにより、塗料乾燥時に使用するガスの使用量を削減し、地球温暖化対策に配慮しております。また電気ヒーターを用いた乾燥設備の採用も増やし、カーボンニュートラルにも貢献を図っております。

―新しい動きについてはどうでしょう。

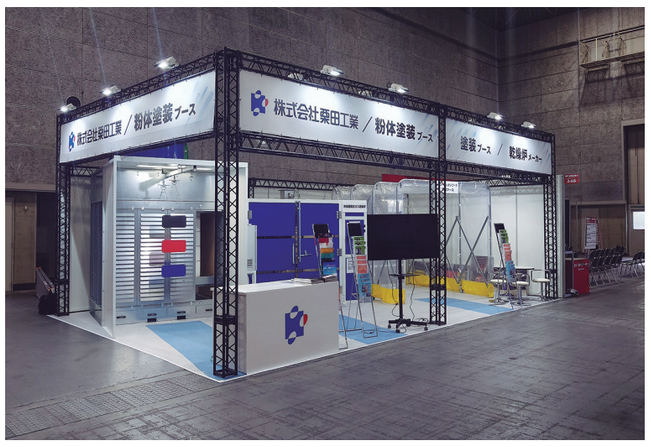
昨年、竣工した当社第3工場は、建物外壁に断熱パネルを採用することにより空調負荷を低減し、空調のエネルギー削減を図っております。さらに、ISOにおいて求められている気候変動対策もテーマに掲げて対応を進めております。

―最後に、来場者へのメッセージをお願いいたします。

今回は、出展方法をよりお客様の工場に実際に納入する形に近づけ、また粉体塗料塗装実演・レーザー溶接機実演を行えるように準備を進めております。

ご来場の皆様には、ぜひとも当社展示ブースにお越しいただき、塗装ブース・乾燥炉に触れていただいたり、粉体塗料塗装実演・レーザー溶接機実演を試していただいて、当社商品の良さを実感していただきたいと考えております。

―ありがとうございました。



㊤展示ブースの全景㊦粉体塗料の塗装実演